

下部消化管内視鏡検査(大腸ファイバー)の説明書

患者氏名

生年月日

以下のとおりに説明しました。

説明者

I. 目的

下部消化管とは大腸(盲腸と結腸、直腸)のことですが、これらの場所にできる病気(炎症・潰瘍・ポリープ・がんなど)の診断と治療を目的に行われる検査です。

II. 検査の方法

検査前に右腕から点滴を始めます。鎮痛剤や鎮静剤の注射をすることがあります。鎮静剤を使用する目的は、検査の緊張を和らげ、検査を楽に受けられるようにするためです。しかし、鎮静剤の使用により検査後に眠気が残ったり、判断力が低下することがあります。人によって異なりますが、半日ぐらい眠気が続くことがあります。鎮静剤を使用した場合には、十分に休んでからご帰宅して頂きます。

肛門にゼリー状の麻酔薬を塗り内視鏡を挿入し、大腸をまんべんなく観察します。内視鏡を挿入していく際に腸の中に空気を入れることによりおなかが増えたり、大腸が引き伸ばされることにより痛みを感じることがあります。痛みが強いつきは遠慮なく医師に教えてください。必要があれば小さな組織を採取(生検)して顕微鏡検査を行い、良性か悪性かを判断します(病理組織検査)が、特に痛みはありません。

検査は通常 10～30 分かかります。

検査終了後は点滴が終わるまで 1 時間程休んでいただきます。

* ポリープ等の病変があった場合は内視鏡切除を行うことがあります。その場合、切除面が大きかったり出血などがみられた場合は数日間の入院が必要になることがあります。

*

III. 検査前日および当日の注意事項

前日の食事は検査食か腸に残らない低残渣食を食べていただき、以後は寝るまでに水分をたくさん飲んでいただくと同時に、別紙のように寝る前に下剤を飲んでください。当日は検査前の腸管洗浄液や医師に指示された薬剤(血圧や不整脈の薬など心臓の薬など)以外の薬は飲まないでください。

また、他施設から処方されている薬剤があれば一覧表か現物をご持参ください。

尚、検査当日は車、バイク、自転車を運転しての来院はおやめください。ご高齢の方はご家族が付き添って頂けるようお願いいたします。また、検査入院も可能ですのでご希望の方は主治医とご相談ください。乗り物でご来院された方は、鎮静剤の使用をご希望されても、使用できませんのでご了承ください。

IV. 検査後の注意事項

点滴が終了すれば水分や軽食を摂っていただいて結構ですが、組織検査を受けられた方は2時間くらいあけてください。検査後の食事は、刺激の強いものは避けアルコールも控えてください。

自宅に帰られた後も以下の症状が続いたり増強する場合は必ず病院に連絡してください。

- ・突然腹痛が起こった場合
- ・腹痛が持続したり、だんだん強くなっていく場合
- ・肛門からの出血が続く場合

V. 偶発症について

下部消化管内視鏡検査は、熟練した医師により行われるので基本的には安全な検査ですが次のような偶発症が起こることがあります。

- 1) 内視鏡で腸がこすれてできるかさかな傷からの出血
- 2) 組織を採取(生検)することによる出血
- 3) 検査の前処置の薬剤によるアレルギー(皮疹、血圧低下など)
- 4) 内視鏡挿入時やポリープ切除時に、極めてまれですが出血や穿孔(腸に穴があくこと)を起こすことがあります。穿孔を起こすと開腹手術が必要になることもあります。
- 5) 極めてまれですが治療中の病気(脳梗塞や心臓疾患など)が悪化することがあります。

出血・穿孔など生命にかかわる偶発症に関しては、日本消化器内視鏡学会が調査した全国集計(2003~2007年)によるとその頻度は0.078%(約1300件の検査で1人)、死亡率は0.00082%(約12万件の検査で1人)でした。検査はこのような偶発症が起こらないよう細心の注意を払って行いますが、万が一、発生したときは外科的な処置を含めた最善の処置を行います。

処置内容につきましては担当医の判断におまかせください。

VI. その他の注意事項

- ・緑内障(眼圧が高くなる病気)や心臓病をお持ちの方、男性で前立腺肥大と言われている方、女性で妊娠の可能性のある方や授乳中の方は必ず申し出てください。
 - ・抗血小板薬や抗凝固剤(血液をサラサラにする薬剤)を服用されている方は、一定期間薬剤を中止しなければポリープを内視鏡的に切除することができません。病気の種類や程度により中止することによる危険性の方が高くなる場合もありますので主治医とよくご相談ください。
- 中止されなくても観察のみの検査は可能です。

VII. 他の検査法との比較

注腸検査(バリウムを用いた大腸の検査)では、診断は行えますが組織を採取(生検)する検査やポリープの切除などの治療はできません。

この説明書をよく読まれ、内視鏡検査を受けられることに同意された方は別の同意書にご署名のうえ、病院職員へご提出ください。わからないことや疑問点がございましたら遠慮なくおたずねください。同意書をいただいた後でも同意を撤回することはいつでもできます。

同意されない方も今後の治療方針などにつき主治医とよくご相談ください。